

革新的環境技術シンポジウム（京都）

研究企画グループ

2009年11月4日（水）にメルパルク京都において、「革新的環境技術シンポジウム（京都）」を経済産業省、京都府、近畿地域エネルギー・温暖化対策推進会議の後援を受けて開催しました。CO₂固定化・有効利用技術に関する最新の研究動向について、現在までのプログラム研究開発の状況・成果を中心に、RITE内外の講師による発表を行い、環境技術の重要性と技術開発戦略を発信するとともに、これら技術に関する参加者相互の幅広い議論によって産学連携を拡大すること、また本分野における技術戦略マップ策定に資することを目的に開催したところ、産業界、学界、政府関係者等245名の方々にご参加いただきました。詳細につきましては、RITE ホームページのイベント開催結果をご参照下さい。



メルパルク京都（シンポジウム会場）

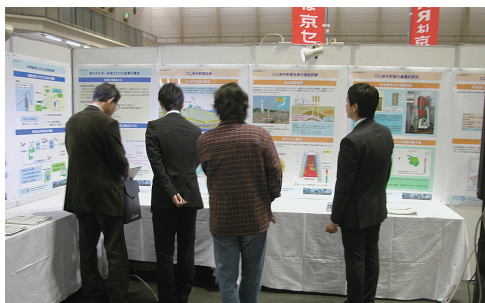
京都環境フェスティバル 2009(展示会)

研究企画グループ

2009年11月21日（土）～22日（日）に京都府総合見本市会館（パルスプラザ）において開催された「京都環境フェスティバル 2009」に出展しました。

「京都環境フェスティバル」は、京都府内の各地域で活動するNPOや学校、企業等の出展により、環境について楽しみながら学び考えることができる参加・体験型イベントで、毎年開催され、今回も2日間で28,000人の来場者がありました。

RITEでは、地球環境問題の解決に貢献するRITEの活動に対する理解促進を図ることを目的に出展し、研究内容に関するポスターや地中貯留模型の展示、地中貯留事業のビデオ上映を行い、多くの一般来場者やNPO、学校、企業等の出展関係者の方々にRITEの活動を紹介することができました。



RITEブースの様子

IIASA-RITE 国際シンポジウム

システム研究グループ

2009年3月3日、経団連会館（東京）にて平成20年度IIASA-RITE国際シンポジウムを開催しました（国際応用システム分析研究所（IIASA）、IIASA日本委員会、RITE主催、経済産業省後援）。今回のシンポジウムには、IIASAからWinterfeldt新所長、地球温暖化とエネルギーの研究分野で中心的な役割を果たしておられますNakicenovic氏とAmann氏、また国内からは、製品評価技術基盤機構（NITE）の御園生理事長、電力中央研究所の杉山上席研究員にもご登壇頂き、最新の研究成果をご紹介いただくとともに持続的な社会・経済構築にむけて、求められる取組みの方向性、施策等に関するご意見を伺いました。

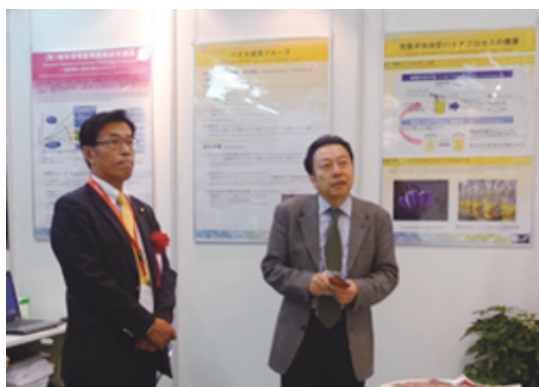
参加者の皆様の多くは、企業や大学、行政の第一線で、また指導的なお立場で持続可能な経済、社会の実現に向けて取り組んでおられる皆様、或いは地域で環境問題に取り組まれている皆様の個人参加もあり、約230名という多くの方に出席を頂きました。皆様に熱心なご発表とご質疑をいただきまして、研究・開発に今後一層の努力をする決意を新たに致しました。



BioJapan2009(World Business Forum) セミナーおよび出展に多数の来場者

バイオ研究グループ

日経 BP 社とバイオジャパン組織委員会が主催したワールドビジネスフォーラムが 2009 年 10 月 7 日～9 日に横浜パフィシコで開催され、RITE バイオ研究グループが参加しました。環境（グリーンバイオ）テーマの一つとして、当グループの湯川理事をモデレータに「バイオリファイナリーサミット Sustainable biomass からのエネルギー・化学品生産」と題したセミナーが開催され、また出展会場では、高効率なバイオ変換プロセスである「RITE バイオプロセス」を中心にポスターや TV 取材ビデオ（バイオ研究グループ紹介）の展示を行いました。出展会場では、共同研究中の企業も出展に参加され、同じブースでパネル説明が行われました。セミナーも含めて多くの方々にご来場いただき、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。本年も参加予定ですので、ぜひご来場いただき、バイオ研究グループの最新の研究成果をお伝えできればと考えています。



RITE ブースにお立ちよりのいただいた経済産業大臣政務官の高橋千秋氏（左）



BioJapan 2009 の RITE ブース

CSIRO-RITE 科学技術シンポジウム -アミンによる燃焼排ガス中 CO₂ の回収-

化学研究グループ

2009年5月26日(火) 京都国際会館において、「CSIRO-RITE 科学技術シンポジウム -アミンによる燃焼排ガス中 CO₂ の回収 -」を開催しました。

このシンポジウムは、オーストラリア連邦政府の後援のもと、オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO) と RITE が共同主催したものです。

当日は、オーストラリア駐日大使館、文部科学省、NEDO の方々をはじめ、大学、企業より 121 名の方々が参加され、大変盛況なシンポジウムとなりました。

本シンポジウムでは、アミンを用いた CO₂ 回収技術に関わる研究開発の成果と世界でのパイロットプラント性能評価実施状況について、専門家を対象に次の方々より講演していただきました。The University of Texas; Gary Rochelle 教授 (米国)、東北大学; 宮本 明 教授、Norwegian University of Science and Technology; Hallvard Svendsen 教授 (ノルウェー)、University of Regina; Paitoon Tontiwachwuthikul 教授 (カナダ)、Thermal Power Research Institute; Cai Ming 氏 (中国)。その他 CSIRO および RITE の研究者による講演を通し、より優れた CO₂ 回収能力のあるアミン類について理解を深めていただきました。詳細につきましては、RITE ホームページのイベント開催結果をご参照ください。



京都国際会館

国際革新的ゼロエミッション石炭火力発電 IZEC Symposium 2009

CO₂ 貯留研究グループ

2009年11月19日（木）、ホテルパシフィック東京に於いて IZEC シンポジウム 2009- 国際革新的ゼロエミッション石炭火力発電（International Zero Emission Coal-fired Generation）- を開催いたしました（経済産業省 資源エネルギー庁、NEDO、石炭エネルギーセンター後援）。

石炭火力発電が今後とも主要電力供給源の役割を続けるためには、CO₂ 問題への対応が不可欠であり、CCS（二酸化炭素回収貯留）が重要な役割を持ちます。

本 IZEC シンポジウムでは、欧州委員会、EU 加盟国規制当局、発電設備サプライヤーなどのステイクホルダーを招待し、最新の CCS への取り組み状況を中心に紹介するとともに、米国エネルギー庁が推進する FutureGen プロジェクトの近況とオーストラリア政府の CCS 促進策として注目される GCCSI（Global CCS Institute）の活動状況についても講演されました。

講演内容として、EU における CCS 実証プロジェクトのネットワークサポートのために提案された取り組みが紹介され、EU-CCS 指令に先駆けて法規制化した英国の炭素回収レディネス（CCR：CCS 施設が後日に設置可能になるよう準備すること）についての講演があり、CCR は「カーボンロックイン」を避けるための、CCS に向けた価値ある予備ステップであることが説明されました。さらに EU の機器メーカーから、CCR を含む CCS 実証プロジェクトについての詳細な技術開発内容が説明されました。



ホテルパシフィック東京（シンポジウム会場）

第4回日中省エネルギー・環境総合フォーラム

CO₂貯留研究グループ

2009年11月8日（日）、北京の人民大会堂にて日中の関係者約500名が参加し、第4回日中省エネルギー・環境総合フォーラムが日本側：経済産業省、財団法人日中経済協会、中国側：国家発展改革委員会、商務部の主催で開催されました。

全体会議では日本側より経済産業省直嶋正行大臣、日中経済協会三村明夫副会長、中国側より国務院李克強副総理、国家発展改革委員会解振華副主任などからの御挨拶の後、41件の日中省エネルギー・環境協力案件の調印文書の交換が盛大に執り行われ（調印については前日の事前調印式にて実施済み）、RITEと中国石油外事局との日中 CCS-EOR 協力合意についても、つつがなく調印文書交換が行われました。

分科会ではトップランナー制度、循環経済、海水淡水化・水処理、自動車、発電・石炭、化学、長期貿易の7分野に関しまして、活発な議論が行われました。



日中 CCS-EOR 協力合意の調印文書交換